

防災・減災の取り組みをより加速するために

# 横浜市民の危機管理アンケート調査

私はこれまでに横浜市内外における災害に関する取り組みについて調査・研究を行い、本紙において報告してきました。直近では、所属する減災対策推進特別委員会で東北視察(八戸市、久慈市、釜石市等)を行い、実際に大規模災害に見舞われた都市に住む方々の災害に対する意識調査について取り上げました(本紙148号)。

今月号は、平成30年6月～7月に実施した横浜市民危機管理アンケートの結果がまとまりましたのでご報告します。

アンケートは、市内に居住する15歳以上の方を対象に無作為抽出で行い、2600人以上の方々より回答をいただきました。

《主な内容は以下の通りです。》

●自助(自分で身を守り備える)、共助(地域での助け合い)の認知度

自助 ◆意味まで知っている：48.5% ◆聞いたこともない：34.6%  
共助 ◆意味まで知っている：45.6% ◆聞いたこともない：36.4%

●自治会・町内会の防災訓練や地域の広域避難場所や防災拠点の認知度

防災訓練 ◆参加している：41.4% ◆参加していない：49.5%  
◇理由 ⇒ いつどこで開催されているかを知らない：53.5%  
避難場所 ◆知っている：45.6% ◆知らない：50.1%

●家具類の固定、感震ブレーカーの認知度と設置

家具類 ◆固定している：53.5% ◆固定していない：38.9%  
◇理由 ⇒ 手間がかかり面倒：25.8%  
感震ブレーカー ◆知っている：39.6% ◆知らない：52.5%  
◆設置している：30.3% ◆設置していない：51.6%  
◇理由 ⇒ 設置方法がわからない：32.1%

●食料、飲料水(1人1日3リットルが目安)の備蓄や他に備えてしていること

食料、飲料水 ◆1～2日分：36.0% ◆備蓄なし：21.4%  
◆3～4日分以上：40.9% ◇理由 ⇒ 保管する場所がない：18.4%  
その他の準備 ◆携帯ラジオ、懐中電灯：76.0% ◆避難場所を決めている：43.9% ◆消火器を準備：40.8%

●防災に関する情報の入手方法

◆テレビ：90.5% ◆インターネット：57.2% ◆携帯電話：48.2% ◆市や県の広報紙：20.8%

●横浜市が配信している防災情報について

防災情報Eメール ◆登録済み：7.5% ◆知らない：72.9% entry-yokohama@bousai-mail.jp  
Yahoo!防災速報 ◆登録済み：14.1% ◆知らない：59.5% https://emg.yahoo.co.jp  
危機管理室Twitter ◆登録済み：2.2% ◆知らない：82.7% https://twitter.com/yokohama\_saigai  
アカウント:yokohama\_saigai

今回のアンケートで大地震への意識について、「近く起きるのではないか」という不安を、「強く感じている」が39.8%と前回調査(平成27年)より4ポイント上昇し、「多少感じている」と合わせると90%を超えています。

そんな中、自助という言葉の意味を「知っている」人の割合が、平成27年(25.6%)に比べて23ポイント上昇して、自分の身は自分で守るという意識が向上していることがうかがえます。また、共助についても20ポイント上昇していることから地域での見守りや支えあいに対する意識も高まってきています。

様々な大災害に備える意味では減災の取り組みが重要となります。家具類の転倒防止や感震ブレーカーの設置、飲料水の備蓄など、できることから始めることが大切ですし、情報収集も身を守る大きな手段となります。

私も引き続き、本紙で様々な情報提供を行ってまいります。今回ご紹介した結果を参考に、あらためて「備え」についてお考えいただけたら幸いです。